

第 32 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和 5 年 2 月 20 日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 32 回 豊橋市小中高特連携教育推進協議会

日時	令和 5 年 2 月 20 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分
場所	豊橋市役所 東 86 会議室
出席者 敬称略	<p>教育長 山西正泰</p> <p>教育委員 渡辺嘉郎 内浦有美 中島美奈子</p> <p>高等学校等校長 森島日出夫（時習館）、木下勝義（豊橋東）、丸崎恵子（豊丘）、山脇正成（豊橋南）、藤城義光（豊橋西）、加藤一史（豊橋工科）、白井由美子（豊橋商業）、衛藤真有（豊橋豊）、彦坂充俊（豊橋特別支援）、山田淳子（くすのき特別支援）、満田康一（桜丘中）、横山貴美（桜丘高）</p> <p>小中校長会 岡本雄二（二川中）、小松正人（栄小）、鈴木宏卓（五並中）、大塚雅史（福岡小）</p> <p>事務局指定委員 種井直樹（教育部長）</p> <p>代理出席 長谷川民予（市立豊橋高教頭）</p> <p>※欠席者 西島豊（教育委員）、市川徹（東田小校長）、山崎宏人（藤ノ花女子高校長）、高倉嘉男（豊橋中央高校長）</p>
ワザハバ	<p>河合厚志（東三河教育事務所 指導課長） 松岡史憲（東三河教育事務所 主査）</p> <p>近藤智彦（田原市教育委員会 学校教育課長）</p> <p>小島千典（蒲郡市教育委員会 学校教育課課長補佐）</p> <p>小田敦子（豊川市教育委員会 指導主事） 小山和宏（新城市教育委員会 指導主事）</p>
事務局	浅倉淳志（教育政策課長） 中村三木也（学校教育課長） 他 7 名
内容	<p>1 協議事項 各分科会の今年度の活動状況と次年度の活動について</p> <p>2 報告事項 東三河小中高特連携教育推進協議会について</p> <p>3 連絡事項 第 33 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会について</p>

議事録

開会

■渡辺会長 開会を宣言し、代理出席者、欠席委員、オブザーバーを紹介

1 協議事項

各分科会の今年度の活動状況と次年度の活動について

(1) 英語教育分科会

■鈴木委員長 活動について資料説明

(木下委員)

豊橋東高校には国際理解コースがありますが、やや情宣不足を感じています。来年度以降、生徒が校内だけでなく校外でも活動できるように後押ししていきたいです。また、県立高校だからといって県とのみ関わるのではなく、豊橋市とも協力して活動し、情報を発信していきたいです。

(鈴木委員長)

豊橋市の小中教員で組織している英語研究部による行事、夏休みの「I LOVE TOYOHASHI! ENGLISH CAMP」には、高校生がお手伝いとして参加してくれています。キャンプに限らず、中学生にとって高校生は身近な存在なので、とても真剣に話を聴きます。今後、様々な活動で豊橋東高校にも声をかけさせていただきたいです。

(渡辺会長)

英語教育分科会の活動が充実してきています。最近では、海外で活躍するスポーツ選手などが英語でインタビューに応じている姿も見るので、日本の英語教育が機能してきていると感じています。英語好きがさらに増えていくとよいと思います。

(2) 理科学教育分科会

■森島委員長 活動について資料説明

(加藤委員)

今回、豊橋工科高校の授業で見ていただいたかったものは、積み重ねた学びが、「その先」にどうつながっていくかということです。高校を卒業したその先、つまり実社会で、学びがどう生かされていくのか、少しはお見せできたと思います。「学びのつながり」「実社会で生きる学び」という観点で、今後もぜひ、本校を利用していただければありがたいです。

(内浦委員)

子どもが理科に興味をもつ取り組みについて「とよはし科学月間」などの活動が行われているので、この協議会でもどんどん紹介して行ってほしいです。

(渡辺会長)

アンケートに「のびるん de スクールで実験講座をしてほしい」という声もあがっています。理科への興味を高める方法は、まだまだあると感じます。

(森島委員長)

SSH の活動の一環で、高校生が中学生に実験を教える取り組みをしています。時習館 SSH 部の部員が中学生に教えている場面を見ると、中学生の食いつきが違います。高校生が教えるというのは、我々が思っている以上に効果があります。

(小松委員)

プロのソプラノ歌手を学校に招いて、講演や歌唱指導をしていただいたことがあります。本物に触れた子どもたちの中から、「歌手になりたい」などの声があがりました。さらに身近な高校生から何かを教えてもらう経験があれば、子どもたちの興味関心が高まっていきます。この協議会など、市教委と協力して、そういった場を提供できるとよいと思います。

(3) 特別支援教育分科会

■山田委員長 活動について資料説明

(小松委員)

すくすくシートなど、幼保小の情報の引き継ぎはとても重要であります。園によっては、個人情報保護の観点から引き継ぎをためらう園もあるように見受けられます。保育課などとも連携しながら、各園と小学校が協力してすすめていけるとよいと思います。

(渡辺会長)

個別の教育支援計画は、高校までもち上がるのでしょうか。

(山田委員長)

作成している場合は、できるだけもち上がっていけるようにしています。通常学級在籍で支援計画が作成されていた生徒が県立高校に進学する場合、支援計画があることで特別視されると考え、配慮を拒む家庭と、支援計画があるのを知ってもらうことで、配慮してもらえてありがたいと考える家庭の、両方のパターンがあるのが実情です。

(長谷川教頭)

現在の市立豊橋高校は、不登校傾向の新入生が多くなっています。そういった生徒について、中学校から個別の支援計画をいただき、大変役に立っています。ただ、保護者が「高校では支援計画を作成してほしくない」と申し出てくることもあります。

また、この支援計画を見ると、非常に細かく書かれているものがあり、大変ありがたいと思う反面、小中の先生方の負担になっているのではないかと思う場合もあります。簡潔に記述できる部分は簡潔にしてもらってもかまわないと感じています。

(中島委員)

豊橋市の幼児教育は、民間の幼保こども園によるものが圧倒的に多いです。公立小学校の先生方は、民間に対して少し壁を感じているかもしれません。私たち豊橋の幼児教育にかかわる者が、小学校教育への架け橋となれるように意識を高めていきたいと思います。

明照保育園では、豊橋西高校とのつながりが継続的にあり、高校生が読み聞かせや保育体験などで交流しています。園児も将来のあこがれの姿を見つけ、高校生の成長にもつながっています。こういった連携も大切にしていきたいです。

特別支援教育に関して、悩みのない保護者はいません。豊橋市として、多様な特性をもつ子どもたちに対して、差別することなく支援していきたいです。今後も、オープンな議論を展開していきたいと思います。

(藤城委員)

豊橋西高校は、3年前から総合学科となり、多様な学びを展開し、高校卒業後の実社会で役立つ「非認知能力」を育むようにしています。また、外国人選抜のコースもあるため、外国籍生徒もいます。多様性の中で、多文化共生や思いやりの心を育てていきたいと考えています。総合学科として、卒業後に幼児教育を目ざす生徒もいる中で、明照保育園と連携させていただき、感謝しています。少子化の中で、幼児期から高校、その先までを見据えた連携ができるようにしていきたいと思います。

(彦坂委員)

個別の教育支援計画が、市の取り組みとして様式を定められていることがすばらしいと感じます。特に「各期の希望・目標」という部分が大切だと思います。学びの連続性の中で、配慮の必要な生徒にも、通常学級、特別支援学級、特別支援学校、県立高校、さまざまな選択肢があります。それぞれの学校が、「卒業後に、生徒がどこに行くか」ではなく「生徒がその先に、どんな将来を描けるのか」を考えられるような教育をしていきたいと思います。

(衛藤委員)

豊橋聾学校では、同じ敷地内で幼稚部・小学部・中学部・高等部があり、それぞれの部ごとに充実した教育ができていますが、今後は、幼と小、小と中、中と高などの「つながり」「接続」を、より意識していきたいです。全職員が「その先」という視点をもって、将来を見据えた教育活動に取り組んでいく所存です。

(4) 言語能力分科会

■大塚委員長 活動について資料説明

(内浦委員)

今はAIの時代であります。頼りすぎてもいけないと考えます。アメリカでは、義務教育でAIを活用しすぎないように通達がなされたと聞きました。今後、言語活動の分野がますます重要視されていくと思います。言語活動ブックを活用しつつ、時流の変化にすばやく対応していくことが肝要であると思っています。

(山西教育長)

言語活動ブックはとてもよい取り組みで、ありがたく思います。作成するだけでなく、どう根付かせていくかが重要となります。現場での活用の方向性を示せるとよいと思います。

(大塚委員長)

授業の中で活用することを想定しています。ペアトークやグループトークを行ったとき、子どもの活動状況に合わせた教師の営みを具体的に示すようにしたいです。ベテラン教員なら瞬時に感じ取って対応できている部分やノウハウについて、若い教員に伝えていけるものになればと思っています。

(山西教育長)

どのように使っていくかが重要です。現場の教員が実際に手にとって使う工夫をしてほしいです。冊子にして配付し、常に手元においておくようにするという工夫もあります。その方向で進めるなら、予算を要望していく必要が出てきます。

(満田委員)

従来の枠組みにとらわれずに、いかにして現代の多様な状況に対応していくかについて、多くの示唆をいただきました。言語活動ブックに限らず、作成したらどんどん活用し、実践を積み重ねることが大切だと思います。教育界に限らず、新しい一歩が求められている時代です。連携を強化し、子どもたちのために力を尽くしていきたいと思っています。

2 報告事項

東三河小中高特連携教育推進協議会の活動について

■河合指導課長 活動について資料説明 (質疑なし)

(渡辺会長)

全体を通してご意見があればお願いします。

(丸崎委員)

豊橋市による、このような小中高特の連携の取り組みがとてもありがたいです。特に、実際に異校種の授業を見合って意見交換することは、教員の資質向上にとって大変重要な機会となります。数学科でも、中学校と高校で連携して1年おきに授業を見合う取り組みを続けています。今後も、小中高特で協力し合っていきたいと思っています。

(山脇委員)

豊橋南高校には、設置3年目となる教育コースがあります。小中高や専門学科などとの連携を通して、ポスターセッションやディベート、パネルディスカッションなどの具体的な経験を経て、成長させてもらっています。

言語活動を可視化するためのツールとして、従来は「付箋」を使って意見を交流させる実践がありました。今後はICTも有効に活用し、言語活動に取り組んでいきたいです。

(白井委員)

豊橋商業高校は、実務系専門科目の教員が多いので、小中高特の連携で英語など共通科目の教員が授業を学ぶ機会があることはとてもありがたいです。また、教員が授業を見合ったり研修でかかわったりする場面について、オンラインでもできることがわかってきましたが、やはりリアルのよさを感じます。特別支援、幼保小中、私立の学校とかかわる機会を、今後も活用させていただきたいと思います。

(横山委員)

教師が行うのではなく、生徒に任せるときに効果が高まることについて、たいへん共感できました。桜丘学園では、食堂などで中1から高3までがかかわるので、教師が指導しなくても生徒が自然にかかわり方を学んで成長します。大きな高3の子が、小さな中1の子に優しく接する場面など、思いやりの心が育まれていると感じます。

また、特別支援の連携もありがたいです。例えば肢体不自由の子などが入学してくると、元の特別支援学級担任と連携することになります。とても細かいところまで教えていただけるので、その子にとって最もよい教育を選択することにつながるとともに、他の教員の学びの機会にもなっています。

(岡本委員)

もともと豊橋は、小中の連携や教員交流などは行ってきました。中高の連携が難しかった部分を、この協議会で補うことができつつあります。今日学んだように、高校に入学するための進路指導ではなく、入った高校でその生徒がどれだけがんばれるかを頭に入れた進路指導を行っていくよう、中学校の教員が心がけていきたいです。

(種井教育部長)

すべての分科会でとてもよい活動が展開されており、頭の下がる思いです。取り組みに感謝しつつ、行政の立場からは、多忙化につながらないように留意しながら計画を進めていくようにしてほしいと願います。

3 連絡事項

第33回豊橋市小中高特連携教育推進協議会について

■浅倉教育政策課長 令和5年5月26日(金)で調整している旨を連絡

閉会

■渡辺会長 閉会を宣言し、終了